

2025年度事業報告書

1. 概況

2025年度国内情勢は企業、国民の経済活動において、本年外国人訪日者が過去最高の4,000万人を超え、また「大阪・関西万博」も入場者数が約2,900万人の成功裡となるなど一段と回復の見られた事業年度であった。一方為替相場の動向などによる、物価上昇、労働力不足など一段と諸問題が提起される年度でもあった。

このような社会、経済環境下、県内経済が取り組む重要課題として「人手不足・人材確保」にどう対処するか、その対応策として「DX化」「生産性向上」が挙げられている。

また、人口減少に伴い、市場規模が縮小することを見据えて「需要が減少しても事業を継続していくには、収益性の向上や消費者が望むニーズを的確にとらえたサービスの充実が必要」などの課題があるが、その課題対応が急がれるところである。

当協会はこのような事業環境下にあって健康会館の特色である、女性フロアの完備、3Dマンモ・OCT等最新医療機器の導入検査、145台確保の駐車場等、健診環境の良さを十分活用し受診者増に向かって営業推進に努めた。そしてアフターフォローの特定保健指導にも注力した。

2. 健康診断事業

健診運営では、検査待ち時間の短縮と接遇の向上を重視した。特に超音波検査についてはスタッフ間の連携を強化し、円滑な進行と適切な誘導に努めた。待ち時間が生じた際には丁寧に状況説明をし、受診者への配慮を行った。健診後に実施したアンケートは反省会で共有し、改善点は速やかに検討・対応している。これらの取り組みにより、スタッフ対応に関する高評価を得ることができた。

2025年2月より、胃部内視鏡検査において、AI機能を搭載した内視鏡画像診断支援システム（内視鏡診断支援機能CAD EYE（キャドアイ））を導入した。本システムの導入により、病変検出の補助をはじめとした検査精度のさらなる向上が期待される。

2025年9月には、従来使用していたマンモグラフィ装置を、3Dマンモグラフィ（トモシンセシス）撮影に対応した装置に更新した。3Dマンモグラフィ撮影が可能な装置が増台となり検査体制のさらなる円滑化が期待される。

昨年度末より開始した要精検者に対する受診勧奨は、各検査担当者が役割分担のもと実施しており、現在、安定した体制で順調に運用されている。